

## 中高生向け キャリア教育プログラム 「リスクと未来を考える授業」の開発について

東京海上日動火災保険株式会社（社長 北沢 利文、以下「当社」）は、中高生向けにカードゲームを使った新しいキャリア教育プログラム「リスクと未来を考える授業」を開発しましたのでお知らせいたします。  
今後、東京海上グループ社員や代理店が講師となり、出前授業や企業訪問の受け入れを通じて全国に展開し、「保険の大切さ」を伝えるとともに、子どもたちの健やかな成長と安心・安全な未来づくりに貢献してまいります。

### 1. 「リスクと未来を考える授業」開発の背景

近年キャリア教育の重要性が高まり、職場体験や企業訪問の受け入れに際して、企業に「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）※」の実践の場の提供を期待する声が高まっています。

当社はこれまで小学生等を対象に、地球環境を考える「みどりの授業」や、大災害から命を守るための「ぼうさい授業」を、全国で約1000回、74,000人を超える子どもたちに実施してきましたが、昨今のキャリア教育ニーズの高まりを受け、中高生向けの新たなプログラムを開発しました。

新しいプログラムは、東京海上日動リスクコンサルティング株式会社が、文部科学省による「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」事業の公募に対して、「学校と企業等が連携した効果的な学習プログラムの開発」のテーマで応募したプログラムを元に、当社が保険の大切さを伝える内容にアレンジし、「リスクと未来を考える授業」として開発したものです。

開発にあたっては、千葉大学教育学部教授・副学部長 藤川大祐先生、および多摩市立東愛宕中学校 校長 千葉正法先生に監修いただき、学校教育現場のニーズを反映した内容としています。

※ 講義形式で一方向的に知識を教えるのではなく、生徒たちが主体的に参加し、仲間と協力しながら課題を解決するような学習方法。

### 2. 授業の内容

- ・ゲーム形式の50～100分授業で、生徒が「ベーカリーショップの経営者」となり、「長く続けられる、いいお店」にするための作戦（経営方針・経営戦略）を考えます。複数の「作戦カード」の中から経営方針に沿った作戦を選び、1年後の売り上げ・利益などへの影響を計算します。
- ・その後、様々なアクシデント等が書かれた「出来事カード」が登場し、経営に与える影響や、1年後の利益の結果をシミュレーションします。利益以外の効果（顧客・従業員満足度、パンの美味しさ等）も考えます。
- ・グループワークを取り入れ、チームで協力しながら時間内に作戦を考え結論を出す経験や、経営者の立場を疑似体験することで、将来の「仕事」に対するイメージを持つ機会となります。

【授業の様子】

授業の流れ (50分授業の場合)	時間
①導入・ゲームの説明	10分
②グループワーク（経営状況を読み取る、経営方針・作戦の選択）	20分
③選択した作戦を元に1年後の利益への影響を確認	5分
④アクシデントが起きた結果、経営に与える影響を確認	5分
⑤利益以外の効果の説明	5分
⑥リスクに備える重要性、仕事の仕組みの説明	5分

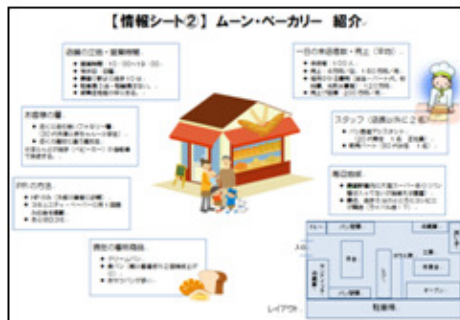


以上

## 「リスクと未来を考える授業」の内容のご紹介

### 1. ペーカリーの基本情報を把握しよう

ゲームを始めるにあたって、基礎情報となる必要な情報を読み取ります。



### 2. ゲーム開始：ペーカリーの作戦を選ぶ

ペーカリーをお客様や地域に喜ばれ、信頼される店にするための作戦カードをグループで話し合って選びます。

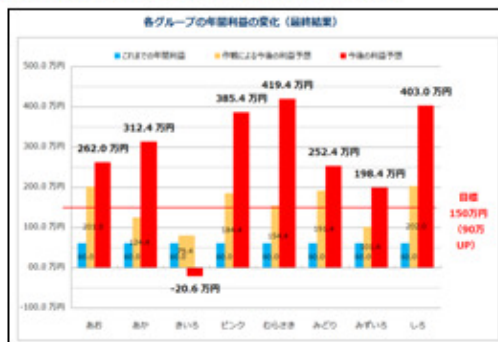
**ステップ 3** 必要な作戦を考える（カードを選ぶ）

カードの番号と作戦の分野

A-1~4	お客様から選ばれる	4枚
B-1~4	もっと良いパンを作る	4枚
C-1~4	安心・安全なお店にする	4枚
D-1~4	スタッフがいきいきと働く	4枚

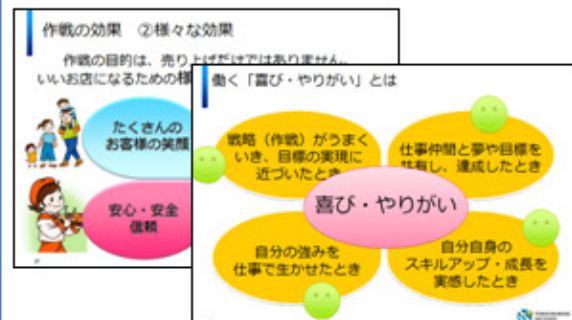
### 3. 売上の効果と予期せぬ出来事による影響を確認する

選んだカードによるペーカリーの売上への効果と予期せぬ出来事による影響を計算します。



### 4. まとめ

ゲームの結果を振り返ると共に、日常生活に生かせる考え方や働く「大切さ」を共有します。



教材の内容は、変更となる場合があります。

## 【監修者・千葉大学教育学部教授・副学部長 藤川大祐先生にお伺いしました】

Q1. このプログラムはどのような内容ですか？

A1. 「身近にありそうなお店について、実はその裏には経営者がいて、経営的な課題を考えている」「様々な不確定要素がある中でそれらに対応していかななくてはいけない」「リスクをマネージしていかななくてはいけない」といったことを体験的に学べる素晴らしい教材です。



Q2. 生徒はどんなことを学べるのか？

A2. 2 つあります。1 つは「経営する側に立つ」ということ。子どもたちは、消費者の立場に立つことはできますが、社会を動かす側、企業を経営する立場には立てません。この授業では、疑似的に経営する側に立てるわけです。もう 1 つは「リスクを考える」ということ。たとえば、子どもたちは「努力すれば報われるだろう」と単純に考えがちですが、様々な出来事が起こり得る世の中で、「努力してもうまくいかないこともあり、それに備える」という発想はなかなか持てません。そういったリスクを考える上でも価値のある授業です。